

## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 10-165210

(43)Date of publication of application : 23.06.1998

(51)Int.Cl.

A44C 9/02

(21)Application number : 08-344536

(71)Applicant : KINUGASA TOMOKO

(22)Date of filing : 09.12.1996

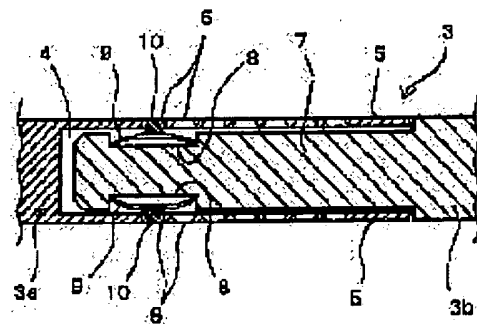
(72)Inventor : KINUGASA TOMOKO

## (54) RING

## (57)Abstract:

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To repeatedly adjust the size of a ring diameter by permitting a ring body having an extension/contraction possible adjusting mechanism to be hinged in a base part where a decorated object is pivotally fixed to be rotation possible.

**SOLUTION:** A ring is constituted of the base part 1 where the decorated object S consisting of jewelry or precious metals is fixed and the ring body 3 which is hinged in the end part of the base part 1 with a hinge part 2 so as to be rotation possible and an adjusting mechanism C extending/contracting the ring body 3 so as to be separation possible is provided in a position opposed to the base part 1 of the ring body 3. A groove 4 is fitted in the end part of one separation possible ring body part 3a in the ring body 3 and a plurality of restraining holes 6 are piercedly formed at equal intervals on long opposed walls 5 which constitute the groove 4. An inserting part 7 fitted into the groove 4 is formed in the end part of the other ring body part 3b, recessed parts 8 are formed at the both front part sides of the inserting part 7 and projections 10 respectively energized by plate springs 9 are arranged inside the recessed parts 8. Then, the projections 10 are elastically fitted to the restraining holes at desired positions so as to be freely attachable/detachable, the ring body 3 is extended/contracted and the size of the ring diameter is adjusted.



## LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 23.08.1999

[Date of sending the examiner's decision of rejection] 22.05.2001

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平10-165210

(43)公開日 平成10年(1998) 6月23日

(51)Int.Cl.<sup>6</sup>  
A 4 4 C 9/02

識別記号

F I  
A 4 4 C 9/02

審査請求 未請求 請求項の数4 F D (全 4 頁)

(21)出願番号 特願平8-344536

(22)出願日 平成8年(1996)12月9日

(71)出願人 596183963

衣笠 知子

東京都大田区鵜の木1丁目17番1号

(72)発明者 衣笠 知子

東京都大田区鵜の木1丁目17番1号

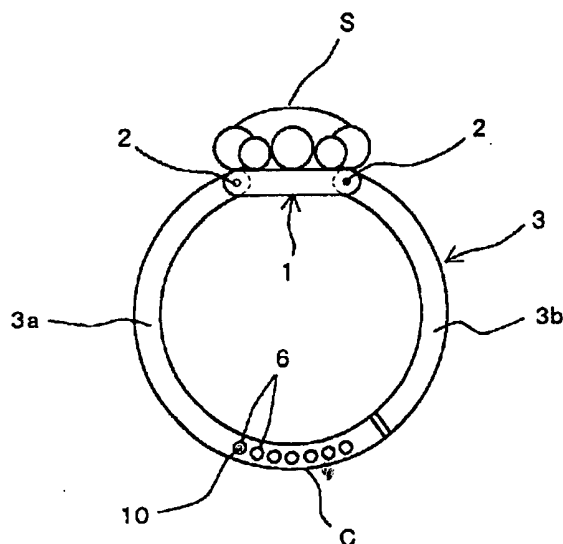
(74)代理人 弁理士 橋本 克彦 (外1名)

(54)【発明の名称】 指 輪

(57)【要約】

【課題】 指輪を傷めることなく、環径を自由に変えることができるようにする。

【解決手段】 装飾物Sが固定された台部1に、伸縮可能な調節機構Cを有する環体3を回動自在に螺着する。



## 【特許請求の範囲】

【請求項 1】 装飾物が固定された台部に、伸縮可能な調節機構を有する環体が回動自在に蝶着されていることを特徴とする指輪。

【請求項 2】 前記環体の前記調節機構の部分が他の部分よりも剛性の高い金属材料を用いて一体形成されていることを特徴とする請求項 1 記載の指輪。

【請求項 3】 前記調節機構は、前記環体の分離可能な一方の環体部の端部に設けられた溝の長壁に複数の係止孔が穿設されているとともに、もう一方の環体部の端部に設けられた前記溝に嵌入する挿入部に付勢状態に突設された突起が前記係止孔に係脱自在に係合される構成とされていることを特徴とする請求項 1 又は請求項 2 記載の指輪。

【請求項 4】 隣り合う係止孔の一部分が互いに重なり合い連通して形成されていることを特徴とする請求項 3 記載の指輪。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、宝石類や貴金属などの装飾物が装着された指輪に関し、詳しくは、指輪の環径の大きさを自由に調節できる指輪に関する。

## 【0002】

【従来の技術】装飾物が装着された装身具としての指輪は、一般に薬指に嵌られて使用されるものであり、その環径の寸法は薬指を基準にして段階的に号数で決められている。そして、使用者は自分の薬指に適合した号数のものが店頭にある場合は即座に購入できるが、適合しない場合には専門業者に適合する号数の指輪に調整してもらって使用しており、調整加工に日数を要しすぐに購入できない。

【0003】近年になって、装身具としての指輪を、個性的なファッションを強調する用具として、また、気分の赴くままに、薬指のみならず他の指にも自由に嵌めかえたいという要望がある。しかしながら、従来の環径の大きさが固定した指輪では、環径の異なる大きさのものを何個も所持しなければならず不経済であり、環径の調節可能なものが求められている。

## 【0004】

【発明が解決しようとする課題】従来、環径が調節できる指輪として、例えば、裁縫用の指輪に見られるように、環体に切れ目を設け、この切れ目の幅を変えることにより環径を調節するものがある。

【0005】しかしながら、この従来の切れ目の幅で調節する指輪は、切れ目の部分が露出して見映えがわるいうえに、金や銀のような貴金属による指輪は、環径を変える為に何度でも塑性変形を繰り返すと、金属疲労による劣化が進むとともに指輪の形が崩れてしまう欠点を有している。

【0006】本発明は、上記の問題に鑑みてなされたも

ので、一つの指輪を所望の指に見映え良く嵌変えができるように、指輪を傷めることなく環径の大きさを繰り返し調節できるようにすることを目的としている。

## 【0007】

【課題を解決するための手段】本発明は、前記課題を解決するために、装飾物が固定された台部に、伸縮可能な調節機構を有する環体を回動自在に蝶着した。

【0008】環体の調節機構の部分を他の部分よりも剛性の高い金属材料を用いて一体形成することにより、強度の高い調節可能な指輪にすることができる。

【0009】調節機構を、環体の分離可能な一方の環体部の端部に設けた溝の長壁に複数の係止孔を穿設するとともに、もう一方の環体部の端部に設けた前記溝に嵌入する挿入部に付勢状態に突設した突起を前記係止孔に係脱自在に係合させる構成としたことにより、見映え良く繰り返し環径を変えることができる。

【0010】更に、隣り合う係止孔の一部分を互いに重なり合せ連通して形成したことにより、環径を微調整することができる。

## 【0011】

【発明の実施の形態】以下、本発明の好適な実施の形態を添付図面を参照しながら詳細に説明する。

【0012】図 1 乃至図 5 は、本発明の指輪の実施の形態を示すもので、図 1 に示すように、宝石類や貴金属からなる装飾物 S が固定された台部 1 と、前記台部 1 の端部に蝶番部 2 を介して回動自在に蝶着された環体 3 と、から構成され、環体 3 の台部 1 に対向する位置には、環体 3 を分離可能に伸縮する調節機構 C が設けられている。

【0013】台部 1 および環体 3 は、金や銀、白金などの貴金属、および、これら貴金属を含む合金で形成されている。そして、環体 3 は、台部 1 の両端部に蝶番 2、2 を介して調節機構 C で分離可能に連結されて伸縮可能な環状態を形成している。

【0014】尚、図 5 に示すように、調節機構 C で分離可能な環体 3 の一方の環体部 3 a を台部 1 と一体形成するとともに、もう一方の環体部 3 b のみを蝶番 2 で枢着した構成としてもよい。

【0015】調節機構 C は、図 2 に示すように、環体 3 の分離可能な一方の環体部 3 a の端部に溝 4 が設けられており、この溝 4 を構成する対向する長壁 5、5 には複数の係止孔 6、6 が等間隔で穿設されている。また、もう一方の環体部 3 b の端部は前記溝 4 に嵌入する挿入部 7 となっており、この挿入部 7 の前方の両側には凹所 8、8 が設けられ、この凹所 8、8 内にはそれぞれ板バネ 9、9 で付勢された突起 10、10 が突設されている。そして、所望の位置の係止孔 6、6 に突起 10、10 を弾性的に係脱自在に係合させて環体 3 の伸縮を行い、環径の大きさを調節する構成となっている。

【0016】長壁 5 に等間隔で穿孔された隣り合う係止

\*【発明の効果】以上の様な形態で実施される本発明の指輪は、以下に記載のような効果を奏する。

【００２３】本発明の指輪は、装飾物が固定された台部に、分離可能に伸縮する調節機構を有する環体を回動自在に蝶着した構成としたので、環体を伸縮させて環径を調節しても、形の崩れや塑性変形による劣化の心配がない。従って、何回も簡単に環径の調節が可能となり、所望の指に一つの指輪を自由に嵌変えることができる。

【0024】環体の調節機構の部分は繊細で傷みやすいので、この部分をステンレスなどの剛性の高い金属材料を用いて一体形成することにより、多数回の調節操作に耐える強度の高い指輪にすることができる。

【００１９】本発明の指輪は、以上のように構成されているので、所望の大きさに環径を調節するときは、係止孔６に挿入できるピンを用いて調節機構Ｃの突起１０、突起１０が係合している平行する係止孔６、６の外側から突起１０、１０を突き押しして係合を解除し、続いて、環体３の伸縮操作を行い、突起１０、１０を所望の係止孔６、６に合わせて弾性的に復帰係合させればよい。従って、操作が容易であり、専門業者の手を煩わせることなく使用者自身の手で環径の調節をすることができる。

【0026】また、調節機構は、その正面に環体の切れ目が間隙となって露見することがないうえに他の環体の部分と連続する一体化した外観を呈するので見苦しさがない。また、係止孔も小さく目立たないので、装身具の指輪としの美観を充分維持することができる。

【0027】更に、調節機構の隣り合う係止孔の一部分を互いに重なり合せ連通して形成することにより環径の微調整が可能となり、使用者の指にぴったり嵌合する指輪にすることができる。

【 0 0 2 0 】 環体 3 の調節機構 C の部分は、長壁 5、5 からなる溝 4 に挿入部 7 が嵌入して、調節機構 C の正面に環体 3 の切れ目が間隙となって露見しないようになっており、環体 3 の他の部分と連続する一体化した外観を呈している。更に、突起 1 0 が係合する係止孔 6 は小さく目立たないので、装身具の指輪として美観を損なうようなことがない。

【図1】本発明の指輪の実施の形態を示す正面図。

【図 2】図 1 に示す指輪の調節機構の部分の拡大断面図。

【図3】別の実施の形態を示す正面図。

【図4】別の実施の形態を示す正面図。

【図5】別の実施の形態を示す正面図。

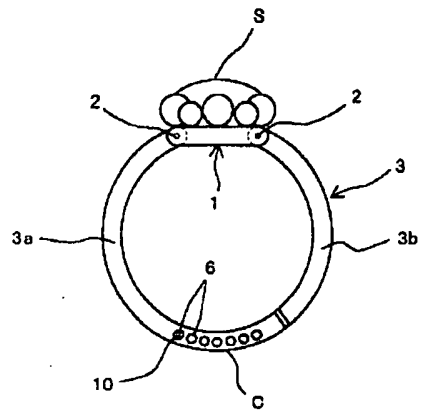
【符号の説明】

【0021】また、環体3を調節機構Cで伸縮させて環径を調節しても、環体3はもう一端部にある蝶番2で回転するので、環体3にも台部1にも無理な塑性変形が発生せず、指輪の形を崩したり、傷めることがない。

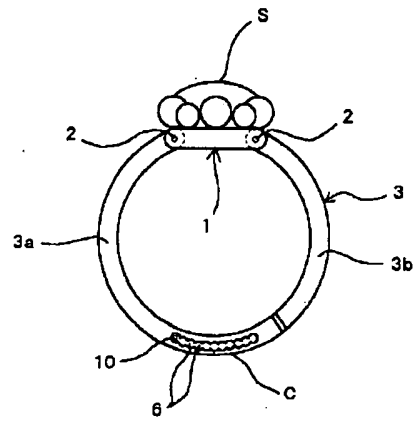
1 台部, 3 環體, 3 a 環體部, 3 b 環體部, 4 溝, 5 長壁, 6 保止孔, 7 插入部, 10 突起, S 裝飾物, C 調節機構,

\*

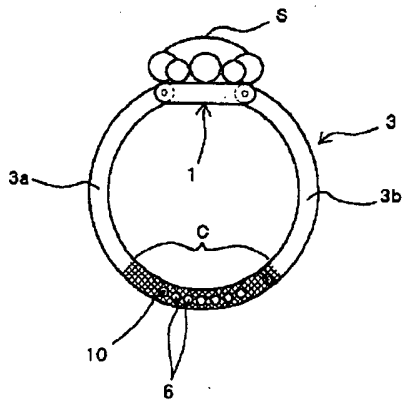
【図1】



【図3】



【図4】



【図5】

